

**第33回
全国病児保育研究大会
in 鹿児島**

子育て応援団 病児保育室
～専門性をコラボした質の高い病児保育を目指して～

2023年
7/16(日)・17(月・祝)
宝山ホール
鹿児島市中央公民館

会頭 松田幸久
実行委員長 立元千帆 あおぞら小児科
主催 一般社団法人 全国病児保育協議会
詳細は こちらから
QRコード

まつだこどもクリニック 病児保育室「森のくまさんの家」

まつだこどもクリニック(大会事務局)
鹿児島県鹿屋市西原2-35-3

iコンベンション株式会社(運営事務局) TEL 092-402-1320 FAX 092-402-1340
福岡市博多区博多駅前1-7-14号 BOIS博多7F [e-mail] hoiku2023@iconvention.jp

編 集 後 記

第33回鹿児島大会会頭松田先生より研究大会に向けて熱い思いが届きました。どれも拝聴したい内容ばかりです。日本の近代化に携わった西郷隆盛の足跡などに触れる事ができ、また鹿児島でしか味わえない食文化も今からたのしみです。皆様、鹿児島でお会いしましょう。

委員・三村

協議会ニュースに関するお問い合わせ先

一般社団法人 全国病児保育協議会 広報委員会 担当:藤本保
〒870-0943 大分県大分市片島83-7 大分こども病院 FAX.097-568-2970
Email: byouji@oita-kodomo.jp

病児保育協議会 NEWS

全国病児保育協議会ホームページ <https://www.byoujihoiiku.net/>

**鹿児島大会にむけて**

第33回全国病児保育研究大会 in 鹿児島 会頭 松田 幸久
まつだこどもクリニック 病児保育室「森のくまさんの家」



この度2023年7月16日(日)～17日(月・祝日)の2日間、「第33回全国病児保育研究大会」を開催することとなりました。今年度は会長が大川洋二先生から杉野茂人先生に交代し、病児保育協議会も新たなスタートとなります。この2年間は新型コロナウイルス流行のため病児保育の施設の利用者数は激減してしまい、どの施設も運営の維持が厳しく経営の危機が続きました。そんな苦難を乗り越えての全国大会開催です。新型コロナウイルスの流行は、やや収束の兆しが見えてきたようにも思えますが、2023年には患者数が今よりも少なくなり、大会を安心して開催できるように祈っております。

鹿児島大会の会場は、鹿児島県民から「せごどん」と呼ばれて愛されてきた西郷隆盛さんの像のそばにある鹿児島県文化センター(宝山ホール)と鹿児島中央公民館です。大会テーマは、「子育て応援団・病児保育室～質の高い病児保育を目指して～」としました。

ここ2年の間、新型コロナウイルスの影響を受け、大人も子どもも外出の自粛やイベントの中止が続き、日常の行動の制限を受けてきました。日常の診療でも不安を抱える子どもたちが多く見られます。そんな様子を見ていると、子どもたちには、子どもらしさを忘れず生活を楽しみ、たくましく生きる力を身に着けてほしいと願うばかりです。また保護者も、人ととの触れ合いの場が減少しているために精神的にも不安を感じることが多いようです。安心して子育てができるためにも、病児保育は子育て支援のランドマークとしての役割を担う必要があります。

鹿児島大会では、教育講演、セミナーやワークショップを企画しました。大会に参加することにより、事故予防、感染防止対策、食物アレルギー対策、医療的ケアを必要とする子どもたちへの対応、予防接種の最新情報などを習得し、病児保育施設だけでなく、保育所や児童発達支援事業所との連携をしっかりとできるよう

ヒントを見つけてほしいと思います。特別講演としては、歌手のAIさんのお母様で子育て支援の講演会を数多くされているバーバラ植村さん、絵本作家のサトシンさんにお願いしております。どちらも有意義で楽しい講話が聞けることでしょう。本研究大会で研鑽を積み、習得した保育、看護、保育看護の知識とテクニックを地元にお持ち帰りになり、病児保育の現場で活躍されると確信しています。また、鹿児島らしい試みとして、コアラの数が日本一多い平川動物園の方に、動物たちの子育てについて話を来ていただく予定です。また、ウクライナでの紛争が続いている中、太平洋戦争時に特攻作戦がはじまった鹿児島の地から、命の大切さや平和について参加される会員の皆さんと考えていきたいと思います。

全国大会の学習以外の楽しみは、観光とその土地の美味しい食事ではないでしょうか。観光は、会場周辺では西郷隆盛の像と、その真向かいに小松帶刀の像が建っています。また、西郷隆盛の私学校の跡地があり、城壁には幾つもの弾痕があり、西南戦争の生々しさを物語っています。令和2年から新たに鶴丸城が復元され、新たな観光名所となりました。会場からは桜島が見え、噴煙をあげて鹿児島の人たちを見守っているようです。また、遠出されると、桜島や、温泉で有名な霧島、指宿もあります。食の楽しみについては今年の和牛審査会で日本一となった鹿児島黒毛和牛で、その味は絶品で、しゃぶしゃぶ、焼き肉、ステーキのどれも、美味しい満点です。そのほか、黒ぶた、他の地域ではみられない地鳥の刺身。カンパチやキビナゴなども堪能できます。懇親会も企画していますので、地元の美味しい芋焼酎を楽しみながら、参加された会員の皆さんと、熱い思いを語り合いましょう。桜島と西郷さんが皆さんのお越しをお待ちしています。

山梨県支部報告

県内でもコロナ感染症の増加により、会場は予定していた病児保育施設ではなく県の施設の多目的ホールで行うことになりました。

特別講演は「熱中症について」と題し、内布先生よりお話を聞かせて頂きました。猛暑の中、マスク生活もあり誰でも成りうる熱中症の対処法を詳しく学ぶことができました。

熱中症は気づかぬうちにくなってしまうことがあります。本人の自覚が薄く、平気だと思って働いていると重症化していたということがあるそうです。猛暑プラスマスク生活があるので、年齢関係なく自分も園児も周りの人にも気を配っていきたいと思いました。



ました。

病児保育に携わる方たちは、自分も感染してしまうのではないか、感染させてしまうこともあるのではないかということを、常に思いながら勤めて下さっていることが、改めて伝わりました。そんな中で、医師が入室時に抗原検査をしていることの安心感だったり、保護者の仕事を休めない時の力になれたり、感謝の言葉を頂くことで、やりがいを感じ、保育士として大切な仕事になっているという肯定感につながると思いました。

今回3年ぶりに対面での研修、グループワークができ、皆様の仕事に対する真剣さが伝わり、コロナ禍で足踏みばかりではないなと実感することができました。

山梨県支部長 宮本直彦

げんきキッズクリニック 病児保育室ドリーム



三重県支部報告

三重ブロック研修会は一昨年はコロナ禍で中止、昨年は文書での情報交換という形でしたが、今年はZOOM開催ということになり、R4.9.11に開催致しました。

三重県支部はシェルームの貝沼圭吾先生が新支部長となりましたので自己紹介を兼ねた挨拶をして頂きました。貝沼先生の病児保育室シェルームはまだ開設後の年数は浅いですが先生の子育て支援にかける思いは熱く、深く今後の三重県の病児保育を引っ張っていって下さる方だと参加された皆様も思われた事と思います。

特別講演は3つあり、貝沼先生が座長をしてくださいました。

まず、三重大会でお世話になった国立三重病院の院長谷口清州先生に感染症対策・COVID-19についてご講演いただきました。小児患者の臨床症状や小児・大人の後遺症について、ワクチンについてのお話を頂き大



変内容の濃いものでした。

演題2は、三重県子ども・福祉部次長の西崎水泉様と四日市市役所子ども未来課課長、上田浩嗣様より行政から見た病児保育室・三重県の施策についてのお話がありました。

病児保育の現状と取り組みに関する行政側としての支援など具体的なお話を頂きました。

演題3は協議会の病児保育広域化PT委員でもある園田正樹様より病児保育における広域受入とICT化についてのお話でした。協議会から出された病児保育広域受け入れガイドライン2022についてやICTのメリットなどについてお話がありました。

演題2の時から広域化を望む声があり、関心の高い内容であることが伺えました。講演後更に広域化に向けての思いが強くなったのではないでしょうか。

とても内容の詰まったものであったことに諸先生方に御礼申し上げます。また、今回ZOOM開催にあたり志摩のよいこ病児保育室、羽根靖之先生にホストをお借りするなどご尽力頂きましたことに心より感謝致します。

支部会報告者 杉浦順美

四日市病児保育室カンガルーム

2021年度(令和3年度)病児・病後児保育利用実績調査のお願い

皆様におかれましては未だ新型コロナが落ち着かずお忙しい中、大変恐縮ですが、例年に倣い協議会加盟施設の実績調査を年明けに実施しますので、ご協力をお願いします。年末には病児保育協議会ホームページから調査サイトを開くことができるよう現在、準備中です。どうかご回答をいただけるようお願いいたします。

今後も新型コロナウイルスの感染が続くだろうとされる社会において、子どもの成育環境は変容されていくと思います。そのような中でも病児保育は、子育てにおいて子ども支援、家族支援、地域支援に大きな役割を果たすことができると考えています。それには

病児保育が持つ能力を生かせるような環境を行政が支えていくことが必要です。そのため皆様からいただいた回答によって資料を作成して、病児保育の運営が安定してできるように政府や自治体に働きかけたいと思います。つきましては、ご多用のところ恐縮ですが、是非アンケートのご回答をいただけるようお願いします。実施期間は令和5年1月1日から1月31日までです。回答の受付は令和5年1月1日からの開始ですので、何卒、ご協力をお願いします。

全国病児保育協議会会長 杉野茂人
調査研究委員会委員長 荒井宏治

施設情報の更新はお済みでしょうか?

協議会では、2021年度より施設情報を会員ご自身が各々いつでも更新できるシステムを導入しています。一度もシステムにログインしないでいる、協議会側が会員専用ページのセキュリティのためにパスワードを変更した際に新しいパスワードがわからなかったり、協議会から会員に向けて発信するダイレクトな情報が届かなかったりします。また、施設情報を正しいものに更新しないでいると協議会からの郵便物(ニュースなども届きません!)が届かなかったりと不都合なことが起こります!!

システムログイン用の認証番号は2021年5月に(それ以降の入会施設は入会時)お送りしています。必ず登録申請を行ってください。
システムに関するお問い合わせは kouhoutoiawase@gmail.com へお願いいたします。

機関誌第14号特別企画原稿募集要項

当委員会では、機関誌「病児保育研究第14号」の特別企画として、「千葉大会から学んだ事」をテーマに原稿を募集してもれなく掲載させて頂きたく、以下のように原稿を募集いたします。

- ①タイトルはテーマに沿った内容であれば自由。
- ②字数はWORDで800字以内。画像を使用する場合は、データ1点のみ。
- ③〆切は令和5年2月末日必着。
- ④送稿方法はメールに原稿ファイルを添付して送付。
- ⑤原稿送付宛先:全国病児保育協議会事務局 info@byoujihoiiku.net

千葉大会に直接会場へ足を運ばれた方やリモートで参加された方などいません。また、大会運営に携わった方などからの原稿も大歓迎です。久しぶりに対面も含めた学会が実現したので、いろいろな思いがあるかと思いますし、病児保育の研究面でも今後に有用な点等あったとお考えの方など、自由に投稿してください。上記要項を遵守して頂ければどのような文章形態でもご自由です。多数のご投稿をお待ちしています。

機関誌編集委員会